

足元のMLP市場動向と今後の見通し

情報提供資料

12月11日のMLP市場動向

- 2015年12月11日のMLP市場は前営業日比5.9%の大幅下落となりました。12月8日のキンダー・モルガンの大幅減配を受けて市場が動揺していたところへ、週末にかけての原油相場の急落がMLP市場を再び打撃した格好です。

1) 原油価格下落に伴うリスクオフ相場

IEA(国際エネルギー機関)が12月11日に発表した月次報告書において、2016年末まで原油の供給過剰状態は続く可能性があるとの見方が示されると、同日の原油価格は1バレル35ドル台まで大きく続落しました。米国株式や社債市場でもエネルギー・セクター中心に大きく売られ、国債など安全資産に資金が回帰するリスクオフ相場の様相を示すなか、MLP市場も大きく反落した形です。

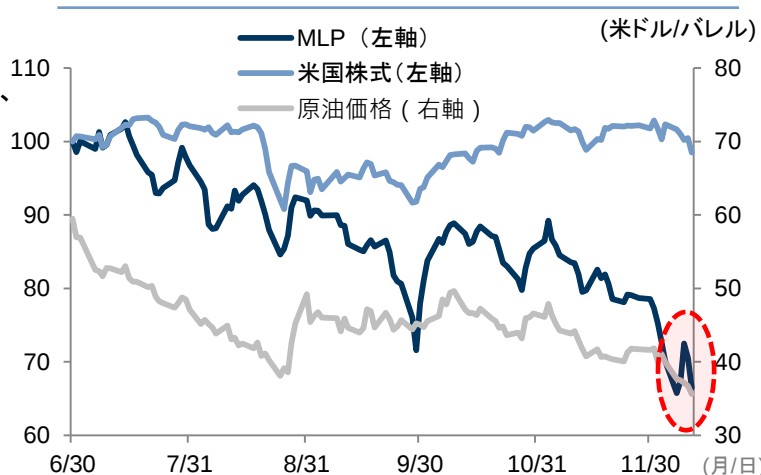
2) 季節要因

年末に向けた税金対策売り(評価損の実現)とみられる売却が加速し、MLP市場の重石となっています。特に12月7-11日の週においては、米国におけるMLPファンドから3.3億ドルもの高水準の純流出となりました。

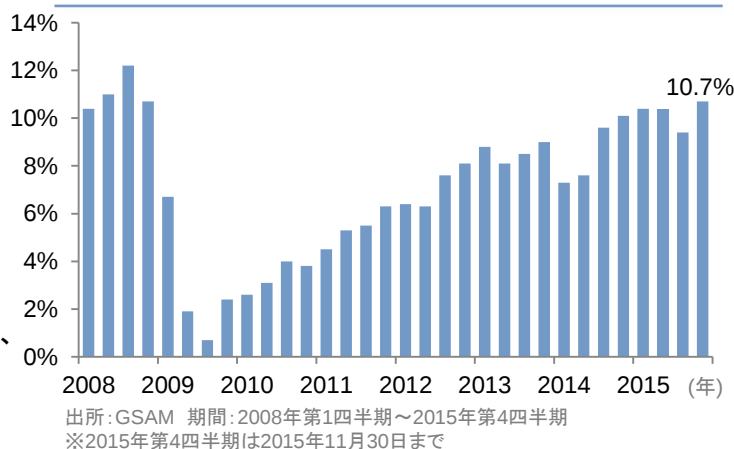
今後の見通し

- 2015年11月30日時点において、2015年10-12月期のMLPの配当成長率は+10.7%と僅かながら加速しています。2014年下期から原油価格の下落相場が始まり1年超が経過しましたが、MLPは依然として過去平均を上回る堅調なキャッシュフロー成長を遂げています。キンダー・モルガンの大幅減配に関しては、相対的に負債比率の高い同社の固有問題と捉えており、他のインフラ関連銘柄に広く波及する可能性は低いと見ています。MLP市場全体としては、当面7%程度の配当成長率を維持するとの従来見通しに変更はありません。
- MLP市場は、短期的には、原油相場やMLP市場の需給環境などマイナス材料が多く、神経質な展開が続く可能性が高いと見ています。しかしながら、川上分野における生産投資が凍結されるなか、中長期的には世界の原油の需給バランスは改善し、原油価格の緩やかな回復とともに米シェールも増産基調に回帰すると見ています。MLPの配当利回りは9.6%(2015年12月11日)と割安な水準で取引され、国債利回りとのスプレッドも2008年金融危機以来の水準まで広がっており、中長期的な観点から投資魅力度は高いと考えられます。

MLP, 米国株式, 原油価格の推移



MLP配当成長率(前年同期比)の推移



MLP配当利回りと10年国債利回りのスプレッド推移

